

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	めだかのがっこうアルファ清水校		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職員(保育士・理学療法士・作業療法士)が支援に関わっている。	<ul style="list-style-type: none"> 各専門職が活動プログラムに関わっている。 各利用者のアセスメントを各専門職の視点で行っている。 月1回、各事業所の理学療法士・作業療法士が集まり会議を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 会社全体だけでなく、各事業所に合わせた具体的な支援を行っていく。
2	プロ家庭教師のジャンプとの提携により、より細かな学習支援と移行支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル教材を的確に用いた学習支援を行っている。 中学受験、高校受験など先々の移行に向けた進路相談を行い、将来の選択肢の幅が広がるようにサポートしている。 月1回プロ家庭教師のジャンプと会議を行い、学習支援の質を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な進路相談会を実施していく。 可能な限り学校と学習内容について情報共有していく。

3	ご利用時のお子様の様子をより細かく情報発信している。	<ul style="list-style-type: none"> ・専用のアプリを使用することで、ご利用時のお子様様子を写真、コメントで細かく情報提供している。 ・アプリを使用することで、ご家族がいつでも様々な情報を確認できるようにしている。 	・アプリに頼り過ぎず、日々の密な情報共有を徹底していく。
---	----------------------------	---	------------------------------

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流や保護者同士の交流機会の提供不足	・「本人支援」「移行支援」に重点を置いており、「地域支援・地域連携」についての取り組み不足になっていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練実施について、近隣住民に周知を始めたので、今後は長期休暇時の活動に地域交流の場を設けるよう計画に盛り込んでいく。 ・保護者交流については、保護者のニーズを確認して、慎重に計画の立案をしていく。
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		めだかのがっこうアルファ清水校					公表日	令和 8 年 3 月 27 日
		チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		3			・もう一人、常に療育室に職員がいる状態になればと思う	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3				・できれば体を動かして過ごせる場があればと思う	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	1				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	1	1			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	1	1			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	2				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2	1				
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3					

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3			
	23	定期的にもニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	2	1		
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2		1	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2		1	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		3		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		3		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	1	1	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	1		・運動会がそれにあたると思う
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		2	1	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		3		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		3		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3				

非常時等の対応	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3			・改善してきている	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		3			
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3				
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3				
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	1			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3				
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3				
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3				
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3				

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

公表日: 2026年3月27日

事業所名: 放課後等デイサービス めだかのがっこうアルファ清水校

対象人数(保護者)42人 回答者数 25人 回収 59.5%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	6	1			
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	17	6		2	何名が適切で何名いてくださるのか分からないから	ご意見ありがとうございます。法令で定められている人員の配置をさせていただいております。
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	4		2		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20	5				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
適切な 支援の 提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に 応じた専門性のある支援が 受けられていると思いますか。	19	4	1	1		
	⑥	事業所が公表している支援 プログラム(※2)は、事業所の 提供する支援内容と合ってい ると思いますか。	21	4				
	⑦	こどものことを十分に理解し、 こどもと保護者のニーズや課 題が客観的に分析された上で、 放課後等デイサービス計画(個 別支援計画)(※3)が作成され ていると思いますか。	20	4	1			
	⑧	放課後等デイサービス計画には、 放課後等デイサービスガイドラ インの「放課後等デイサービス の提供すべき支援」の「本人支 援」、「家族支援」、「移行支 援」で示す支援内容からこども の支援に必要な項目が適切に設 定され、その上で、具体的な支 援内容が設定されていると思 いますか。	22	3				
	⑨	放課後等デイサービス計画に沿 った支援が行われていると思 いますか。	23	2				
	⑩	事業所の活動プログラム(※4) が固定化されないよう工夫され ていると思いますか。	20	1		4	色々な活動プログラムがあっ て、非常にいいと思います	ご意見ありがとうございます。 引き続きお子様が楽しんでい ただけるよう努めてまいります。
	⑪	放課後児童クラブや児童館との 交流や、地域の他のこどもと活 動する機会がありますか。	9	6	2	8		

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23	2				
	⑬	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23	1	1			
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	6	5	8	交流等できる機会があると有難い	ご意見ありがとうございます。社内で検討させていただきます。
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	23	2				
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19	2	1	3		
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	4		1		
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	5	9	7		
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	4		5		
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	4				
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	23	1		1		
㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	3		1			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の 対応	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	3		8		
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	3	1	14		
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	2		11		
	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	2		8	その様な事例がないです。	ご意見ありがとうございます。引き続き事故のないよう、職員一同努めてまいります。
満足度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	24	1				
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	15	8	2			
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	21	4			感謝の気持ちでいっぱいです。いつもありがとうございます。	ご意見ありがとうございます。引き続き職員一同尽力いたします。

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのかがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「放課後等デイサービス計画(個別支援計画)」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。